



田根剛+三井所清典氏と語る TMIB 7月8日

TMIB とは「東京海上ビルディング」の略称。

1960 年代に前川國男が設計した唯一の超高層であり、景観論争を経て高さが 127m から 100m となった歴史に残る超高層。それが解体の危機にある。「記憶の継承」を考え、場所の記憶から建築を作ることを実践している田根剛氏と、日本建築士会連合会会長である三井所清典氏のお二人をお招きし、歴史的価値のある建築の延命についてお話いただき、第二部で TMIB の価値と記憶から、この建築を守り活かす方法を考える。

【第一部】 都市の記憶・建築の記憶

田根 剛 氏 建築家 ATTA

三井所清典 氏 建築家 アルセッド建築研究所 代表

【第二部】 都市の記憶から「建築の命」を考える

田根 剛 × 三井所清典 × 宮田多津夫 (司会)

- 日時 : 7月8日(金) 18:00~20:00 (受付 17:30)
- 場所 : 建築家会館本館1階ホール 東京都渋谷区神宮前 2-3-16
- 参加人数 : 会場 50名(先着順) WEB オンライン参加(100名) 共に無料
- 申込方法 : メールにて申し込みください Eメール: jimu@tmiblove.com
- 署名のお願い: 「東京海上ビルディングを愛し、その存続を願う会」(tmiblove.com)では存続の活動署名を行っています。また活動寄付金と書籍「え、ホントに壊す?東京海上ビルディング」の販売をします。どうぞご協力をお願いいたします。

田根剛 プロフィール

建築家。1979年東京生まれ。Atelier Tsuyoshi Tane Architects を設立、フランス・パリを拠点に活動。考古学的なりサーチにより、場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に『エストニア国立博物館』、『弘前れんが倉庫美術館』、『アルサーニ・コレクション財団・美術館』、『帝国ホテル新本館(2036年完成予定)』など。フランス文化庁新進建築家賞、フランス国外建築賞グランプリ 2021、第 67 回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞

三井所清典 プロフィール

建築家。東京大学 1963 年卒。同大博士課程修了。1970 年にアルセッド建築研究所を設立。1982 年に芝浦工大教授。2007 年に東京建築士会会長。2012 年から日本建築士会連合会会長。地域に根ざす建築的環境の創造を主題に、木造技術の継承、木造建築の復活を目指している。主な作品に『佐賀県立九州陶磁文化館』、『隔林亭』、『宮崎県木材利用技術センター』、『山古志の中山間地型災害復興住宅』など。1983 年日本建築学会賞(内田祥哉と共同)、1995 年 BCS 賞、1997 年日本建築学会作品選奨受賞。